

総合評価方式の評価について

総合評価方式を評価する視点

総合評価方式は、**価格**のみの競争でなく、**技術力**のある企業を評価し、より良い工事目的物を完成させることを目的としていることから、**入札段階**と**竣工段階**で評価する。

○ 試行件数

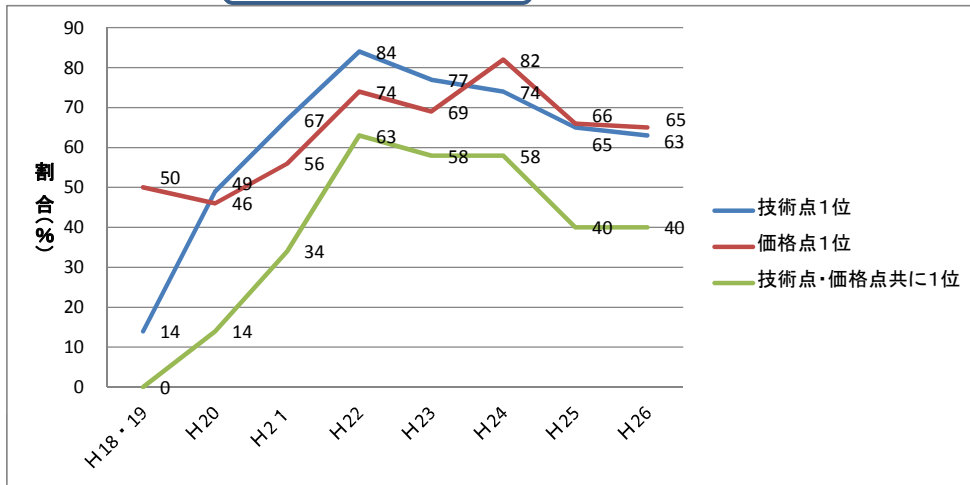
年度	件数
H18	4件
H19	10件
H20	137件
H21	115件
H22	125件
H23	275件
H24	121件
H25	118件
H26	115件
合計	1,020件

※平成23年度の有効件数は271件  
 ※平成25年度の有効件数は113件  
 ※平成26年度の有効件数は112件  
 (落札候補者が失格となった1件を含む)

入札段階の評価

技術点・価格点の最高得点者が占める落札者の割合は前年度と同様であった。落札者が技術点1位または価格点1位のもの占める割合は、**60%以上**となっている。また、技術点及び価格点が共に1位である落札者の割合は前年度と同様に約**40%**となっている。

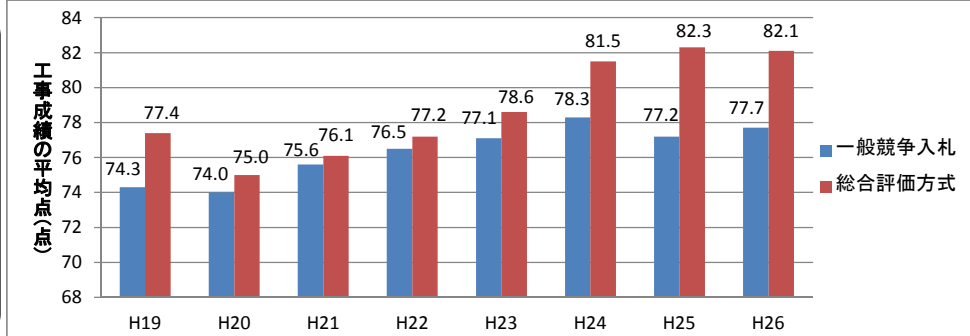
総合評価方式の入札結果



竣工段階の評価

総合評価方式導入後、**工事成績**評定点は年々高くなっていく。前年度と比較して総合評価方式を除く一般競争入札によるものの平均点は若干上がった。総合評価方式によるものの平均点は若干下がったものの高い水準を維持しており、品質が高い工事が行われている。

工事成績の変化



※H18年度は竣工なし

まとめ

以上により**総合評価方式**は、価格のみ評価する**一般競争入札**と比べ  
 ・**技術力**を持ち合わせた会社との契約  
 ・**質の高い工事目的物の完成**  
 という目的に対して、一定の効果がでており、**工事の品質向上につながっていると思われる。**

○平成27年度試行にあたっての改善事項

課題	改善事項
適正な競争性の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>共同企業体参加者の代表者と全構成員の相応な評価として、代表者と全構成員を出資比率に応じて評価する。</li> <li>共同企業体における平成26年度以降竣工工事の工事成績を、平成27年度から評価する。(ただし、出資比率20%以上の企業に限る)</li> </ul>
意欲ある経験豊富なベテラン技術者等の評価基準の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>配置予定技術者は入札公告時に65歳未満で契約工期内に65歳を迎えるものまでとしていたが、65歳の年齢制限を撤廃し、評価する。</li> <li>高齢者雇用の評価年齢を60歳以前より雇用され、60歳以上65歳未満の継続雇用を評価していたが、評価年齢の65歳未満の年齢制限を撤廃し、評価する。</li> </ul>